

1. 学生の福祉に関する認識とその背景について(東日本歯学会第17回学術大会)

著者名(日)	沢辺 千恵子, 大山 静江, 岡橋 知恵, 長田 真美, 小田島 千郁子
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	18
号	1
ページ	227
発行年	1999-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008399/

〔学会記録〕

東日本歯学会第17回学術大会

(平成11年度総会)

—一般講演抄録—

日時 平成11年2月20日(土)

会場 北海道歯科医師会会館 第一会議室

札幌市中央区北1条東9丁目-11

1. 学生の福祉に関する認識とその背景について

○沢辺千恵子, 大山 静江, 岡橋 智恵,
長田 真美, 小田島千郁子

(北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校)

はじめに:

近年、高齢化社会の急激な進展に伴い、平成12年からの介護保険制度施行に向けて着々と準備が進められている。歯科医療においても在宅歯科診療や訪問歯科保健指導等介護への関心が高まり、福祉の専門性を備えた人材の活躍が期待されている。

目的:

本校では、平成10年度からホームヘルパー3級課程養成カリキュラムを導入することになった。そこで、今後の歯科医療と介護を担う学生の福祉に関する認識状況等、学習のレディネスを把握し、今後の授業展開の方向性を明らかにすることを目的とした。

方法:

平成10年9月に無記名の全数調査でアンケートを実施した。調査対象は1・2学年総計107名で、調査形式は学生の福祉に関するイメージ等を自由記述とし、その認識レベルの背景と考えられる要因は選択式で一部世論調査と比較した。

結果:

学生の福祉に関する認識として、自由記述の中からそのイメージや考え方を抽出した結果総計321の項目が得られた。それらを福祉の専門性を支える3つの条件に分

類すると、多い順に①主体性、②知識・技術、③倫理性に関する項目となった。また、それらのイメージ構成に影響している要因を分析すると、約5割が祖父母との同居経験を有していたが、親の老後に対しては積極的に自分が養うという学生は2割弱という結果だった。また、福祉ボランティア経験者は3割であったが、今後に向けてその機会を望んでいる者が8割以上を占めた。

しかし、日常生活の中で障害者への手助けや声かけの経験が無い者は約7割存在し、理由として障害者とふれあう機会が無いことや接し方に戸惑っている等の背景があった。

以上の結果、福祉の専門性を高めるにはボランティア活動への積極的な姿勢を伸ばし、高齢者や障害者への苦手意識を具体的に解決することが主体性や倫理性と深く関わっていることがわかった。

結語

介護を学ぶにあたって、学生の福祉に関する経験や興味等既得の学習要因は高齢者や障害者に関しては認識されていた。今後は、医療と福祉の接点をふまえた倫理性のレディネス形成と福祉課題発見・解決への行動化に向けて授業を展開していく必要性が示唆された。